

小学校教員養成ダンス授業における表現の拡がる カリキュラム・マネジメントの構築

山崎 正枝^{1) 2)}

Construction of Curriculum Management Broadened Expression on Dance Classroom in Training of Elementary School Teacher

Masae YAMAZAKI^{1) 2)}

Abstract

The purpose of this study is to search the effects by construction of curriculum management broadened expression on dance classroom in training of elementary school teacher. Eleven students participated in this study. Contents are to learn basic knowledge and skills of teaching method once for a week for the first-Semester. An enhanced matter is to bring out expression with exploring activity and to try experience learning. The results showed that it was significantly to attach importance to consider five matters above curriculum management ($p < .05$). This data showed that the average and SD was 4.3 ± 0.15 . Especially, the evaluation of reflection by writing showed 4.5 ± 0.52 . It was suggested that the showing emotions and movement map were effective approach to explore expression. On educational evaluation, it was significantly to become interest, to move suitably for theme, resonantly and lively in the case of self-evaluation ($p < .05$). In addition, it was significantly suggested to learn above and beyond to listen, thinking, activities, and application of recognition process in the case of discovery learning and problem-solving learning ($p < .05$). It is considered that high self-evaluation shows to promote discovery learning and problem-solving learning ($r=0.6201, p < .05$).

Consequently, it is suggested that this time curriculum management is effective to broaden expression.

Key words : Curriculum Management, Expression of Emotions, Movement Map, Reflection, Dance Education

1. 緒言

時代の変化が急速に進化する今日、高度化する

社会に AI の一人歩きとも思われる経過に、教育現場には何が求められているのか。文部科学省¹⁴⁾

1) 金沢大学 人間社会学域 学校教育学類

1) School of Teacher Education, College of Human and School Sciences, Kanazawa University

2) 北陸大学 経済経営学部・薬学部

2) Faculty of Economics and Management, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Hokuriku University

連絡先

E-mail : ma_yamazaki@staff.kanazawa-u.ac.jp

は、学習指導要領の改訂の方向性において学力の資質・向上の三つの柱に「知識・技術の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性等」を掲げている。主体的で対話的な深い学びに「どのように参加したか」の発見学習・問題解決学習に関する視点を、認知領域として「何ができるようになるか」が示されて、将来を担う子ども達の確実な学びの習得が求められている。ダンス系の運動領域の学習に、「体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現を通してコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通して論理的思考力を育むことも資する」¹⁶⁾ことが示される。主体的に仲間と交流、創造や判断していくことの逞しさは、課題を解決していく学習課程を含むダンス教育に担われることは大きく、学校教育に導入された意図とも示唆する。松本千代栄³⁴⁾は、ダンス教育について踊りを教えることから創らせることへの内容的な転換、「教える」教育から「ひきだす」教育を提唱、ダンスは問題解決学習と唱え、加えて、ダンス教育は総合的な教育としてまさに教育の核になると提唱している。吉川京子^{17,27)}は、表現運動の教育課程での遊びから生じる動きの発見の重要性、教師が動きを引き出す重要な役割であることを伝えている。そこで小学校教員養成課程のダンス授業にて、探究的な表現活動になるように表現を引き出す問い掛けをコアに、表現運動の縦断的な学習内容である「動きを真似る、成り切る、感情を込める」の過程で、感情を表現する授業展開を試みた。

従って、小学校教員養成ダンス授業において表現運動で表現の広がるカリキュラム・マネジメントを構築、その効果を調べたい。

2. 方法

1. 対象者

対象者は3学年の男子11名(体育科4名、数学科4名、社会科3名)、前期の週に1度の授業の9回である。インフォームドコンセントを重視、

授業に関する振り返りと自己評価を実施した。動きの確認には、iPadを活用した。

2. カリキュラム・マネジメント

1) 授業内容

授業目標は、小学校体育科の運動領域「表現リズム遊び」「表現運動」の基礎的な技能を養い、指導力を培うことである。本授業に参加する学生が、この運動領域に興味を持ち動きの表現活動の広がる展開やカリキュラム・マネジメント¹⁶⁾の構築に努めた。特に、ダンスウォームアップ²⁹⁾で動きを引き出す問い掛けの工夫、そして動き方の発見や習得を目指して、対象者と共に身体を動かした。

プログラムは、授業1回時はオリエンテーションの後、リズムや表現遊びのゲームによるアイスブレイキング⁶⁾を通して対象者間の交流が繋がる内容を実施した。2回時は低学年の内容にて、リズム遊びに教員や仲間の動きを真似る取り組みで動く楽しさを共有した。3回時は中学年の内容にて、表現運動では前回は発展させて題材の特徴を捉え、イメージを膨らませ動きを繰り返すことや変化を付けてのひと流れの動きに取り組んだ。リズムダンスでは、いろいろなリズムに乗り即興的に踊るトレーニングを実施した。エアロビクックダンスの基本的なステップを紹介、ステップの組み合わせに手の動きを工夫したグループのオリジナルダンスの創作に取り組む、リズムに乗って踊ることに対する自信に繋がることをねらいに指導、6回時にリズムダンスを発表し合った。エアロビクス⁸⁾は、運動強度をコントロールする利点²⁸⁾があり、カルボーネン法やBörgのスケール²⁸⁾が活用される。各自の脈拍数を目標脈拍数に上げての運動量の確保と指標を活用できるようになることを指導した。4、5回時は高学年の内容を、表現したいイメージを強調して変化を付けることや感情を込めて表現するひとまとまりの動きの学習に取り組んだ。7、8回時は、曲の選択やイメージを深めて表現することに取り組んだ。指導事項には、「喜」「怒」「哀」「楽」の感情をグループで共感し合い、即興的に表現する声掛けをした。最終9回時は発表会で互いの作品鑑賞会を設定、自己

の振り返り評価と他グループへのコメントを記述した。尚、教員も表現の作品発表に参加した。

本授業では、学習指導要領¹⁰⁾に掲げられている感情を込めて表現する学習に対して、2つのアプローチを試みた。ひとつは、「喜怒哀楽」がテーマの表現である。「喜」「怒」「哀」「楽」から表現したい感情を選択して4班に分かれ、表現したい内容を話し合いグループ化した。もうひとつのアプローチは、各自が表現の道標になるようにムーブメントマップ(A4の4分の1の大きさの用紙)の作成である。ストーリーを記し、動きを言葉に表してイメージを明確に、感情の波を描くことで表現運動を具体的に書き留めた。

2) プレゼンテーション

毎時の授業の内容や進行に沿って、リズムダンスや表現、伝統文化等に関して調べたことをA4にまとめる課題とその5分間プレゼンテーションを実施、調べたことを共有した。日本の伝統文化では、富山県民謡「こきりこ踊り」^{9,23)}を取り上げて踊った。異文化にはフォークダンスや伝統的な踊りが紹介された。交流を目的とするフォークダンスを踊ることで、恥ずかしさや難しさの抵抗に対してダンスは楽しいとの意識転換を促した。



Photo. 1 Presentation by Participant.

3) 振り返りと自己採点

毎時の終わりは、<感想シート>に振り返り⁹⁾として気付き等を書き留めた。また授業を通しての表現運動の自己採点を実施した。参考にしたのは、エアロビクダンス¹⁰⁾や新体操¹²⁾の採点基準での構成(技術・難度・芸術)と実施(完成度)

により採点される点である。これらを参考に「表現力」「技術力」「構成力」の3項目に分けた。採点方法は5段階(5.大変よくできた、4.よくできた、3.できた、2.あまりできなかった、1.できていなかった)方式で、採点番号を○で囲む方法をとった。3区分5項目について、採点の平均値と標準偏差を示した。表現運動を振り返っての感想を記入する自由記述欄を設けた。

3. 教育評価

授業全体の評価について3つの質問調査を実施した。評価形式は、課題に対する目標項目を掲げて達成レベルの尺度を数字で段階に分けて示す評価である。評価は5段階(5.大変よくできた、4.よくできた、3.できた、2.あまりできなかった、1.できていなかった)方式で、段階番号を○で囲む方法である。評価した理由について自由記載欄を設けた。

1) 認知領域に関する自己評価

基礎的な技能を身に付け指導力に繋げる目標の達成に必要なと思われる点について、「○○ができるようになったか」の5つの質問(Q.1 - 5)についての自己評価である。加えて、意見を記入する自由記述欄を設けた。

2) 発見学習・問題解決学習に関する自己評価

文部科学省のアクティブ・ラーニングに関する議論¹⁴⁾にて、アクティブ・ラーニングは学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習方法の総称であり、発見学習・問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれることを定義している。大学授業に深化させるための特徴に挙げられる発見学習や問題解決学習できる育成に関する6つの質問(a - f)について、「どのように授業に参加したか」を自己評価して自由記述欄を設けた。

3) カリキュラム・マネジメントに関する評価

カリキュラム・マネジメント¹⁸⁾の構築で、対象者の学びをより深化するのに有効と考える5つのプログラム(アイスブレイキング、ダンスウォームアップ、プレゼンテーション、振り返り、書くこと)について、その必要性についての5段階に

よる評価を得た。加えて、授業期間の前半（振り返り1）、中間（振り返り2）、後半（振り返り3）でのモチベーションの5段階評価を調べた。

4. 統計処理

教育評価に関しては、ノンパラメトリック検定を使用した。認知領域に関する自己評価、発見学習・問題解決学習に対する自己評価には5段階の評価を実施、有意差があるかは度数に関する適合度の検定を行った ($p < .05$)。学習発見・問題解決学習には対象者の特性を捉える内的整合性の検証をクロンバックの α 係数を算出、SPSS (Microsoft 社製 Excel) を使用した ($p < .05$)。授業のモチベーションにおける5段階評価では、平均値及び標準偏差を算出した。前半、中間、そして後半の3つの自己評価の平均値間の有意差検定に F-検定を利用した ($p < .05$)。

3. 結果

1. 授業の振り返り

1) 授業の感想

Table 1 は、＜感想シート＞に書かれた感想である。初回時は、楽しくできた、リズムの乗る、仲間と楽しめたことが記入された。低学年の内容では、成り切る、身体を大きく動かす、上下左右

に動くといった動き方に関する事、中学年の内容では、真似る、組み合わせる、教材の使用への興味、挑戦や習得への意欲について、高学年の内容では、緩急、メリハリを付けるといった DKW (Dance Key Word)¹⁵⁾ に関する事が書かれた。5回時には、仲間の動きへの関心、手足の先まで意識、感情を表現することの難しさが書かれた。6回時では、アイテムの使用で表現に対する難しさの寛容、プレゼンテーションにより外国の伝統文化や言語に興味深く学習できたと意識の変化が見られた。7回時、表現の課題に対して問題解決の具体的な方法が書かれ、「はじめ-なか-おわり」の構成、授業で実践したアイテムの活用、楽しい、面白い、自由に表現するといった発見の言葉が書かれた。8回時は、表現作品の気付きや課題が具体的に、仲間の観察が書かれており、発表会への意欲が示され、最終の発表会では、達性感、自他共にお互いの表現の学習を認め合う評価が示された。

2) 表現運動の自己採点

Table 2 は、「表現運動」に関する自己採点の結果を、採点項目と評価基準の3区分5項目採点の平均値及び標準偏差である。全体の自己採点の平均値及び標準偏差は 3.7 ± 0.90 点であった。「表

Table 1 Reflection of the class.

回	内容	授業の感想
1	オリエンテーション ウォーミングアップ 姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイキングが面白く楽しく授業に参加できた。 ・表現することの楽しさ、難しさを感じた。見たことを真似るのが難しかった。 ・楽しみながら体を動かすことができた。 ・アイスブレイキングで身体も心もほぐせるのでよい活動だと思った。 ・ダンスは余りしたことなくすごく楽しみになった。 ・姿勢は自分を見直す良い機会になった。意識していきたい。 ・音楽に合わせて動くのが楽しかった。 ・いろいろな活動で楽しかった。 ・ダンスの授業は受けたことがなかったが楽しくできた。皆と仲良く楽しめた。 ・ダンスでリズムに乗ることができて楽しかった。難しいこともあった。
2	低学年の内容 真似る	<ul style="list-style-type: none"> ・花の表現は難しかった。表現は皆と呼吸が合いはじめると面白い。 ・自然や動物を表現、頭で思っているのと動きが合わず難しい。 ・ストーリーを考えながら表現することで体と同時に頭もほぐすことができた。 ・自然や動物を表現するのに身体を大きく動かすことを意識した。 ・自然の身体表現がすごく難しかったが面白く、全身を使ってしっかりできた。 ・皆で話すことで想像力は豊になる。体全体で表現することは難しいと思った。 ・表現運動は初めてで新鮮だった。皆で体を動かすことは楽しいと思った。 ・左右に移動して動けるが上下運動は全然ダメだったので、次は意識しようと思う。 ・頭で考えたことを表現するのは難しかったが楽しめて良かった。 ・花や風に成り切る表現は難しかったが楽しかった。沢山のゲームで楽しかった。 ・低学年の内容で簡単に体を動かすにはいい運動だと思った。

3 中学年の内容 切り切って踊る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達で動きを組み合わせる動きがとても楽しく、いろいろと挑戦したい。 ・絵本で表現するのが楽しかった。 ・すぐにリズムに乗り踊れたのはとても良かった。 ・絵本を見て真似するのは面白く、教材を使うことがとても大切だと思った。 ・皆で動きを考えて行うのが楽しかった。 ・手の動きを付けいたら思ったより難しくもって練習していきたい。
4 高学年の内容 感情を込めて踊る	<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん動きの構成が増え難しくなってきたが、動きを覚えていくのが面白い。 ・動き方がどんどん増えて大変だった。体で覚えたい。 ・自分達でダンスを考える授業は中学生時に行ったが、あらためてやると難しい。 ・緩急をつけることでメリハリができて結構楽しい。難しい。 ・教師になった時、アドバイスできるように頑張りたい。 ・中国語の課題を頑張る。 ・プレゼンは分かり易かった。
5 表現運動 「喜怒哀楽」を表現する	<ul style="list-style-type: none"> ・「喜怒哀楽」を表現するのはとても難しい。が、勉強したい。 ・中間の表現を見て関心を深めていきたい。 ・感情を動きで表現することはとても難しいと感じた。 ・表現は単純な動き1つでも抑揚を付けたり大きくすることで変わると感じた。 ・手足の先まで意識して動けたらいいと思う。 ・「喜怒哀楽」の表現が難しいと感じた。 ・「楽」の表現を選んだが、いざ動きを考えるとどう動いてよいか分からない。 ・表現の動きに指先まで意識して動くことに務めたい。 ・自分の考えを表現するのは難しい。
6 表現運動 「喜怒哀楽」を言葉にする	<ul style="list-style-type: none"> ・「喜」について表現マップを作ったがこれをダンスにするのは大変だ。 ・感情の表現をするには言葉を動きに変えることが難しいとあらためて感じた。 ・人前で踊ると動きが小さくなり自信を持ち大きく運動できるように頑張りたい。 ・新聞紙を使う表現はとてもやり易く楽しい。大きく表現するように心がけた。 ・物を使ってダンスをするだけでより面白い表現ができる。 ・新聞紙でいろいろな動きを表現すると思いつき動いてすごく楽しめた。 ・舞踊の起源がその地域の生活と深く関わりがあることはとても興味深く感じた。 ・ダンスを面白くできた。フランス語で歌を表現するのは楽しかった。
7 表現運動 自分の「喜怒哀楽」を動きにする	<ul style="list-style-type: none"> ・「喜」の表現のストーリーがある程度できた。 ・タイトルを決めると動きのバリエーションが少しずつ浮かんできた。具体化して思い切り表現したい。 ・自分のテーマが「哀」、自分なりに踊るのは難しいがやり甲斐がある。 ・ストーリーの「はじめ - なか - おわり」を意識して考えた。 ・表現の曲が決まり構想も見えてきてよかった。「はじめ」と「おわり」を考えると「なか」も自然に決まり、順調にいくといいなと思った。 ・感情表現をもっと自由に考えていきたい。正しい姿勢は意識していきたい。 ・表現することが難しく感じた。難しく考えるより楽しめるように頑張りたい。 ・表現の運動を難しく考えずにシンプルに考えていく。 ・用具を用いて動くことで新しい動きが出てくると思った。 ・布を使って表現した。台風や風や海の波を表現してとても楽しかった。 ・皆の発表が面白かった。表現できるようにしたい。
8 表現運動 自分の「喜怒哀楽」を即興的動きに表現する	<ul style="list-style-type: none"> ・「喜」の表現のストーリーができてきた。あとは皆と合わせる。 ・「哀」の表現が具体的に出来あがり充実した時間だった。何も無いところから踊りを考えつくるのがこんなにも難しいと感じたが、頑張りたい。 ・一人の表現はとても難しい。頑張る。 ・曲に合った動きを考えなくてはと思った。 ・発表に向けてイメージを膨らませながら指先までしなやかに動かしたい。 ・次週の発表会に向けての準備がしっかりできた。 ・皆が楽しく参加していて良かったと思った。 ・発表会前の動きを確認したが、思ったよりも動くことができ良かった。 ・表現の動きが完成して良かった。発表会では頑張りたい。 ・発表会に向けての最後の練習ができた。来週、頑張りたい。 ・ダンスの表現力がいつもより豊かにできた。
9 発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・皆の発表は面白かった。 ・体を大きく使い自分なりに表現できた。踊っているとすごく楽しかった。 ・発表を通して皆の演技を見ていろんな工夫ができると感じた。今後に繋げたい。 ・ダンスの楽しさを知ることができた。授業は楽しかった。 ・発表会を通して表現する楽しさを感じ、人を相互に評価する大切さを学んだ。大きく表現することは楽しかった。 ・皆の表現は、ストーリーがあって面白かった。自分も大きく表現できてよかった。 ・皆の表現は、「喜怒哀楽」を上手く表現できて感情が伝わった。 ・発表会は思ったより皆が真剣で良かった。 ・最初は恥ずかしかったがどんどん慣れて最終的に自分なりに表現できたと思う。 ・発表は出来る限りの表現ができたと思う。教員も含め皆で表現して凄かったと思った。 ・表現ダンスは上手くいったと自己評価している。

Table 2 Score on expressive exercise.

classification	elements	self-score mean±SD
expressiveness	1) topic	4.4±0.81
	2) passion	3.6±0.81
	3) togetherness	3.3±1.27
	4) energy	3.9±0.83
	5) deep emotion	3.1±0.83
	mean±SD	3.7±1.00
technical point	1) posture	3.5±0.82
	2) timing of motion	3.8±0.98
	3) effective motion	4.0±1.00
	4) formation	3.3±0.79
	5) perfection	3.5±0.93
	mean±SD	3.6±0.91
compositional effort	1) originality	4.0±0.89
	2) program of story	3.8±0.60
	3) choreography	3.5±0.93
	4) composition	3.7±0.79
	5) suitable work for theme	3.9±0.70
	mean±SD	3.8±0.78
total	mean±SD	3.7±0.90

Table 3 Average of self - evaluation about 5 questions and number of each grade.

No.	questions through the classroom	mean±SD	number of each grade					goodness fit test
			5	4	3	2	1	
Q.1.	Could you become interested about dance and expression exercise?	4.6±0.50	7	4	0	0	0	*
Q.2.	Could you move suitably for theme and image ?	4.1±0.54	2	8	1	0	0	*
Q.3.	Could you move resonantly and lively ?	4.1±0.54	2	8	1	0	0	*
Q.4.	Could you enjoy dancing without shame ?	4.0±0.77	3	5	3	0	0	
Q.5.	Could you become interested in traditional culture as varsity student?	3.2±0.98	1	3	4	3	0	
	total	4.0±0.39	15	28	9	3	0	
	%		27	51	16	5	0	

(Note: Evaluation on a scale of one to five.)

* p<.05

現力」における平均値及び標準偏差は 3.7 ± 1.00 点を示した。1) 話題の表現は 4.4 ± 0.81 点、2) 感情を込め豊かな表情は 3.6 ± 0.81 点、3) 一体感 は 3.3 ± 1.27 点、4) 元気な演技は 3.9 ± 0.83 点、5) 感情を込めたかは 3.1 ± 0.83 点であった。「技術力」における平均値及び標準偏差は 3.6 ± 0.91 点を示した。1) 姿勢やフォームは 3.5 ± 0.82 点、2) 動きのタイミングは 3.8 ± 0.98 点、3) 効率良い動きが 4.0 ± 1.00 点、4) フォーメーションが 3.3 ± 0.79 点、5) 完成度が 3.5 ± 0.93 点であった。「構成力」の平均値及び標準偏差は 3.8 ± 0.78 点を示した。1) 独創性は 4.0 ± 0.89 点、2) ストーリーの工夫は 3.8 ± 0.06 点、3) 振り付けは 3.5 ± 0.93 点、4) 構成の工夫は 3.7 ± 0.79 点、5) テーマに合う作品は 3.9 ± 0.70 点であった。

2. 教育評価

1) 認知領域に関する自己の評価

Table 3 は、授業を振り返り「○○ができるようになったか」についての 5 段階評価の平均値及び標準偏差、各段階選択者数の結果である。5 つの項目の全体の平均値及び標準偏差は 4.0 ± 0.39 を示した。Q.1 ダンスや表現運動に興味をもつことができたかについては 4.6 ± 0.50、Q.2 テーマやイメージに相应しく動くことができたかについては 4.1 ± 0.54、Q.3 メリハリをつけ伸び伸び動くことができたかは 4.1 ± 0.54、Q.4 恥ずかしがらず楽しく踊ることができたかは 4.0 ± 0.77、Q.5 大学生として伝統文化に興味を持つことができたかについては 3.2 ± 0.98 であった。5 段階評価の人数に差が見られるかについて、度数に関する適

Table 4 Description about recognition.

Q.1
・何も知らない状態から学び、面白さを知ることができた。
・表現の面白さを知ることができた。
・興味が湧く教材ばかりだった。
・初めてのダンスや表現、とても楽しくできた。
・興味が持てる授業だった。
・いろんなステップを知ることができた。
・前よりも興味を持てた。
・もともとダンスが好きだった。
Q.2
・考える力がついたと思う。
・考えながら動くことができた。
・素直に動けた。
・表現発表でテーマに合わせて表現できたと思う。
・自分でストーリーを決めて踊った。
・テーマに上手く表現できるように積極的にできた。
・しっかりと考えて表現できた。
・動きが少なかった。
・無茶だと感じる時があった。
Q.3
・大きい小さいの対比の動きを意識してできた。
・自分なりに動きにメリハリをつけたと思う。
・伸び伸びと動けた。
・ポイントを意識して動けた。
・少し恥ずかしかった。
・指導してくれたからできた。
・上手く表現できたかわからないが頑張れた。
・もう少し努力必要と思う。
Q.4
・吹っ切れた。
・ダンスに対する苦手意識がなくなった。
・思いきり踊ることができた。
・楽しかったけど恥ずかしかった。
・初めてで動揺した部分もあったが楽しくできた。
・恥ずかしさは徐々になくなった。
・恥ずかしさはあった。
・教師が動いているのを見て参考になった。
Q.5
・皆がいろいろと調べてきたことで興味を持てた。
・もう少しプレゼンや踊りたかった。
・自分で調べて学べた。
・今まで知らなかったことを学ぶことは面白いと思った。
・自分で調べたり友達の前で発表でとても勉強になった。
・もっと伝統文化に触れたかった。
・あまり興味がわかない。
・余りわからなかった。
・あまり持てなかった。

合度の検定を行ったところ、Q.1, Q.2, Q.3 に有意差が認められ、3項目について「5」から「1」までの度数は一樣でなかった。傾向として、興味を持つことができたことの評価は11名中7名が「5」を示し、伝統文化への評価は一番低かった。とりわけ、羞恥心について「2」「1」に評価する対象者がいなかった。Table 4は、質問領域に関する意見である。

2) 発見学習・問題解決学習に対する自己評価

Table 5は、発見学習や問題解決学習に関して「どのように参加したか」についての5段階評価の平均値及び標準偏差、各段階選択者数を示した。全体の平均値と標準偏差は 3.7 ± 0.42 を示した。a 聴く以上の関わりは 3.9 ± 0.83 、b スキルの向上は 3.8 ± 0.75 、c 思考（分析・総合・評価等）に関わったかは 3.5 ± 0.52 、d 活動（読む・書く・議論等）への参加は 3.7 ± 0.65 、e 自分自身の態度や価値観を探求は 3.5 ± 0.82 、f 認知プロセスの外化（知識を使い話し向上する等）は 3.8 ± 0.60 であった。評価の人数に差が見られるかについて、度数に関する適合度の検定を行ったところ、a、c、d、f に有意差が認められた。これらの4項目の「5」から「1」までの度数は一樣でなかった。全員の自己採点の平均値及び標準偏差は 3.7 ± 0.42 点を示した。加えて、学習発見・問題解決学習で被検者の特性を捉える内的整合性の検証では、クロンバックの a 係数は、0.62 で一貫性について中程度を示した。Table 6は、質問領域に関する意見である。

Fig.1は11名の自己評価に関する平均値について、縦軸に発見学習や問題解決学習を、横軸に単

Table 5 Avelage of self-evaluation about discovery learning and problem-solving learning and number of each grade.

No.	factors for discovery learning "How did you participate in the classroom?"	mean±SD	number of each grade					goodness fit test
			5	4	3	2	1	
a	engagement than just listening	3.9±0.83	2	7	1	1	0	*
b	development of skills	3.8±0.75	2	5	4	0	0	
c	thinking (analysis, synthesis, evaluation etc.)	3.5±0.52	0	5	6	0	0	*
d	activities (read, write, discuss etc.)	3.7±0.65	1	6	4	0	0	*
e	exploring for self-attitude and sense of values	3.5±0.82	1	5	4	1	0	
f	externalization of perceptiona plogram (use, speak, develop knowledge etc.)	3.8±0.60	1	7	3	0	0	*
	total	3.7±0.42	7	35	22	2	0	
	%		11	53	33	3	0	

(Note: Evaluation on a scale of one to five.) * p<.05

Table 6 Description about problem-solving learning.

a	<ul style="list-style-type: none"> 疑問を質問した。 コミュニケーションが上手くできた。 仲間の動きを応用して動けた。 聴いて観て動くことができた。 思うようにできなかった。
b	<ul style="list-style-type: none"> 良い所を取り入れた。 少しはダンスが上達した。 オリジナルダンスを仲間と作った。 知らなかったことを学ぶことができた。 最初よりも創造性を高めることができたと思う。 恥ずかしさがなくなっていた。
c	<ul style="list-style-type: none"> もう少しできると思う。 どのように踊るかを考えた。 分析して実践できた。 グループでダンスを考えることができた。 考えて表現できた。
d	<ul style="list-style-type: none"> 考えたことを表現できた。 オノマトペで歌を作った。 調べてまとめたことを発表した。 フランス語を頑張れた。 しっかりと発表できた。
e	<ul style="list-style-type: none"> もう少し努力がいる。 楽しく学ぶことができた。 主体的に取り組めた。 意欲的にできたと思う。
f	<ul style="list-style-type: none"> 言語化できた。 最終発表で学んだことを活かすことができた。 学んだことを基に考えて動くことができた。 ダンスを作り踊ることができた。 調べたりまとめたりして学習できた。

元の終わりの評価を示した。被検者の発見学習や問題解決学習と自己評価の関係に回帰直線を使用した。とりわけ、相関に関して $y = 0.6798x - 0.9928$, $r = 0.6201$, $n=11$ ($p < .05$) で有意な中程度の相関関係を示した。

4. カリキュラム・マネジメントに関する評価 1) プログラムにおけるFD

重視した5つプログラムについて対象者はどう捉えているかを知るために評価を依頼した。Table 7は、5段階評価の平均値及び標準偏差、各段階選択者数である。全体の平均値及び標準偏差は 4.3 ± 0.15 を示した。i .アイスブレイキングについては 4.5 ± 0.52 , ii .ダンスウォーミングアップは 4.1 ± 0.70 , iii .プレゼンテーションの企画は 4.4 ± 0.67 , iv .振り返りは 4.5 ± 0.52 , v .書くことによる振り返りは 4.4 ± 0.67 であった。人数に有意差が見られるかを度数に関する適合度の検定を行ったところ、5つの全てのプログラムに有意性が認められた。従って、これら5項目についての度数は一様でなく、教師の用意したプログラムについて評価していることが示された。ダンスウォーミングアップの平均値及び標準偏差は 4.1 ± 0.70 を示し5項目中で一番低く、2名が「3」の評価をしていた。

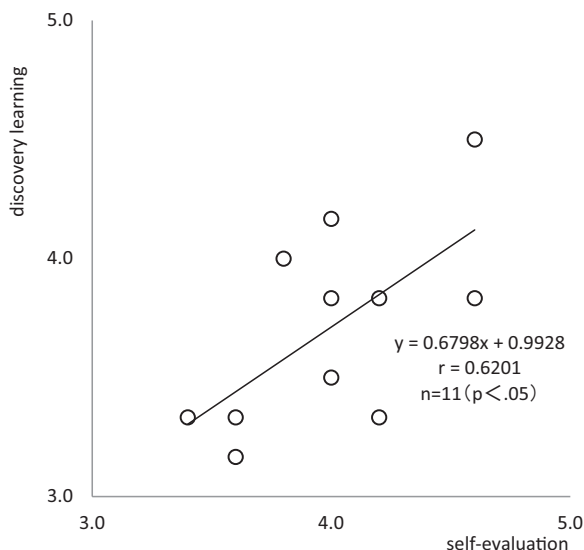


Fig. 1 Relation with discovery learning and self-evaluation.

Table 7 Evaluation about emphasizing programs

emphasizing programs		mean±SD	number of each gread					goodness fit test
No.	“How you think about these programs?”		5	4	3	2	1	
i.	easing game	4.5±0.52	5	6	0	0	0	*
ii.	dance w-up	4.1±0.70	3	6	2	0	0	*
iii.	presentation	4.4±0.67	5	5	1	0	0	*
iv.	reflection	4.5±0.52	5	6	0	0	0	*
v.	record by writing	4.4±0.67	5	5	1	0	0	*
total		4.3±0.15	23	28	4	0	0	
%			42	51	7	0	0	

(Note: Evaluation on a scale of one to five.) *p<.05

Table 8 Motivation between pre, middle and past class.

motivation in the classroom		reflecte 1	reflecte 2	reflecte 3	F-value	Tukey's HSD
No.	“Which did you feel your evaluation?”	pre	middle	past		
i)	① enjoyable	3.4±0.67 *	4.0±0.77 *	4.6±0.67 *	13.8679	c1<c2<c3
ii)	② difficult	3.2±1.17	3.5±0.69	3.3±0.65	0.2979	c1<c2, c2>c3
iii)	③ work	3.4±0.67 *	4.0±0.77 *	4.6±0.67 *	13.8679	c1<c2<c3

(Note: Evaluation on a scale of one to five.) *p<.05

2) 授業のモチベーション

Table 8は、前半、中間、後半の授業でのモチベーションについて5段階評価による平均値及び標準偏差である。1. 楽しさに関するモチベーションについては、前半が3.4 ± 0.67、中間が4.0 ± 0.77、後半が4.6 ± 0.67を示しモチベーションは上がり、その間には有意差が認められた。3. 達成感に関しては、前半が3.4 ± 0.67、中間が4.0 ± 0.77、後半が4.6 ± 0.67を示し、その間には有意差が認められた。2. 授業の難しさについては、前半が3.2 ± 1.17、中間が3.5 ± 0.69を示すも、後半には3.3 ± 0.65であった。その間には有意差は認められなかった。

4. 考察

1. カリキュラム・マネジメントの効果

表現運動について「真似る→成り切る→感情を込める」の低・中・高学年の縦断的段階を踏まえた学習に取り組んだ。感想からは、前半の低学年での授業展開には楽しいとの感想かにはじまり、「緩急、メリハリ」等のDKWの意識や意欲が見られた。しかし「感情を込める」学習の段階では、「楽しい」から「難しい」との感想に変わっている。授業での様子には、ダイナミックに表現するため

に伸びきる動きの表現は十分な伸びには至らずに、動きを流す状況も見られた。上手く踊ることへの意識や動きへの不安、羞恥心からと思われる。

本授業の戦略は、「喜怒哀楽」をテーマに、自己経験を題材にした「感情を表現する」ことを切り口にした表現運動の実践である。従って、即興的な表現であることやオノマトペの活用した声掛けを増やし、動くことの楽しさの再確認を試みた。その後は戸惑う状況から脱しての「喜怒哀楽」のイメージが伝わる表現となる様子が見られた。即興的なひと流れの動きはスムーズに表現され、対比のある動きや伸び伸びした動きの工夫を凝らした表現活動が見られた。羞恥心や難しいに対する意識改革への配慮には及ばず、感情を込めた「伝わる表現」に表現が拡がる進化が見られた。今時の醍醐味である「喜怒哀楽」のテーマの表現運動は、ストーリーに仲間と動きを絡み合わせて協調し合い、また曲に乗り表現を確認し合う状況となった。とりわけ、授業で重視した5つのプログラムについての全体の5段階評価の平均値及び標準偏差は4.3 ± 0.15を示し有意性が認められ、主体的な深い学びに効果があったことを示唆する。カリキュラム・マネジメントを構築していく上で、振り返りや自己評価は学習過程の見える化が



Photo. 2 Dance Warm-up Stuation.

でき授業展開の道標に、また対象者の状況把握やコミュニケーションに活用でき教師の学びにも繋げることができたことを示唆する

今回のカリキュラム・マネジメントにおける授業でのモチベーションの結果は、「楽しむ」や「達成感」に関するモチベーションが最終時に向けて高くなる結果が顕著に示されたことについて、5つのプログラムや2つのアプローチの実践、特に最終の発表に向かっての取り組みの影響は大きいと考える。表現に対する「難しい」感については、中間時点で高くなるが最終時点では下がる山型となった。ダンス学習の視点を示したことや発表会の企画が有効であったと示唆する。高橋和子²⁰⁾は、

発表の場や環境づくりが有効な企画であることを報告している。最終の発表会は、自身が「することや仲間を「支える」こと、互いに「みる」ことについての主体的で対話的な学習として多様な動きを引き出すマネジメントの効果であり、環境づくりとなったことを示唆する。振り返りには、客観的に自己観察や仲間の評価が示されており、達性感や自他共に認め合う感想が書かれていた。

2. 探究的な学習の効果

表現の自己採点から見た場合、「表現力」では話題や元気な演技を、「技術力」では効率的な動きを、「構成力」では独創性やテーマに相応しい動きを評価している。これらの結果からも表現活動が対象者の経験により感情の投入がされて、伸び伸びとした表現ができたと推察する。自己採点の低かった「表現力」での仲間との関わり方や深い感情が伝わっているのか、「技術力」でのフォーメーションや完成度、「構成力」での振り付けに関する項目は、表現の動きに対する不安によると思われる。授業は限られた時間であるが、一層のダンスウォーミングアップのトレーニングの実践で自信を付けていく必要性が確認できた。

Table 9は「喜怒哀楽」の発表作品についての

Table 9 Evaluation about the expression.

タイトル	発表直後の感想	仲間の発表作品への感想
喜 NAMAZU (鯨の進化)	<ul style="list-style-type: none"> 喜びを動きにするのは難しく感じたが、はじめてみると意外と体が乗っての伸び伸びとできた。緊張したが、音楽が始まると「表現したい、伝えたい」と気持ちが高まり、自分らしく体を動かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 足の音で地震を表現、ダイナミックで良い。 生物の誕生から喜びが伝わってとても良い。 表現に迷いがなく堂々としていて素晴らしい。 場所を広く使い喜びや成長の表現で良かった。 ジャンプで大きな動きはダイナミックだった。 手を広げて大きさを表現していて良かった。 全体で表現していて良かったと思った。 ダイナミックに動いていてとても良かった。 鯨が大きくなるのを体全体での表現はすごい。
♪ WILL : BUMP OF CHICKEN ≫		
アスリートの気持ち (努力の成果) (苦悩と成功)	<ul style="list-style-type: none"> 苦悩からの努力が表現できた。 最初は恥ずかしかったが、途中からダンスに入り込めて良かった。やりきれ良かった。 少し同じような動きになったけれど表現できた気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめ～な～おわり」の構成がしっかりしていた。 それぞれの表現、一生懸命喜びを表現しているのがとても良かった。 ストーリーが分かりやすく表現も豊かだった。 表情からも悲しいから喜びの表情がしっかり見えていて良かった。 悩んでいる姿がとても印象的だった。 ストーリーがよく伝わってきた。 それぞれに個性があって良かった。 全員が喜びを表現できて完成されていた。すごく良かった。
(挫折からの復活)		
♪ WILL : BUMP OF CHICKEN ≫		

怒 怒 (木々の怒り)	・ 怒りを動きで表現するのはとても難しいことだと思った。	・ 最初のポーズが良い。 ・ 背中から伝えようとするのは粋である。
努 (蓮の花) ♪ ZOOM : KOKOO	・ 苦悩からの努力が表現できたと思う。もっと空間を動かしたかった。	・ 動きに伸びがありメリハリがあった。 ・ 花が咲こうとする表現がすごく良かった。 ・ 蓮の花が動きから連想できた。大きく伸びやかだったので良かった。 ・ 緩やかな動きから体全体を使う動きがいい。 ・ 蓮の花を大きく上手く表現できていた。 ・ 動きがしなやかで道具を用いて表現の幅が広がっていた。 ・ 怒って暴れるというより内に秘めるような静かな怒りを感じた。 ・ メリハリがしっかりしていて綺麗だ。 ・ 細かな動きまで表現されていた。
哀 寝坊 (寝起きからの哀しみ) (絶起)	・ 自分では上手く表現や動きから哀しみを出すことができたと思う。 ・ 音楽に合わせて踊って「哀」を伝えられたと思う。	・ 音楽に合っていて完成度が高いと思った。 ・ 寝坊したという哀しみが上手く表現されてとても良かった。 ・ 顔の表現で「哀」が溢れ出していた。 ・ 曲との組み合わせがよく面白かった。 ・ 絶起したイメージが伝わってきた。顔の表情からも感情の表現がされてとても良かった。 ・ 悲しい顔の表情が良よく伝わって共感できた。 ・ 朝の動きがイメージしやすく良かった。 ・ 目覚めて起きる迄が自分よりも早いと感じた。 ・ 哀しいはずなのに面白かった。
楽 友達と好きな野球 (友達)	・ 少し即興が難しかったが友達をつくって楽しんでいる姿を見ることができた。もう少しイメージや動きを表現できたらよかったと思う。 ・ 恥ずかしいと思ったが、皆が真剣に見てくれたのでしっかりできた。	・ 手を繋いで友達との様子、上手くいかない時、楽しい時が表現されていた。 ・ 楽しさの伝わる表現でとても良かった。 ・ もう少し楽しそうな表情があればよかった。 ・ ゆっくり分り易い動きで楽しい気分になる。 ・ 曲がテーマとマッチして、動きも良かった。 ・ 日常の些細な楽しみを感じた。 ・ ストーリーを感じられた。もっと派手に楽しんでも良いと思った。 ・ 体を大きく使って二人とも楽しいを表現できていて、とても強く感情が伝わってきた。
向日葵と蝶の成長 (わたしのひまわり) (蝶)	・ アドリブが多かったけど上手く踊ってよかった。 ・ 空間を使って大きく動けたと思う。	・ 一番の盛り上がりで思いが伝わり、広く空間を使って良かった。 ・ 表情が良く楽しさが伝わってきた。 ・ 躍動感があった。 ・ 最後、曲の盛り上がりを見せるところで広く動くことで「楽」を強調して良かった。 ・ 動きにメリハリがあって良かった。 ・ ストーリーが良かった。ジャンプや上下の動きや場所を広く使っていて良いと思った。 ・ 空間をダイナミックに使っていて良かった。 ・ 何を表現しているか大変わかり易かった。 ・ とても細かい表現がされていた。
♪ コブクロ : ダイヤモンド		

自他の感想、Table 10 は授業の表現運動の振り返りである。「喜怒哀楽」の表現は課題解決の一助に、互いの鑑賞の感想の交換は対話的な学びに有効であったと示唆する。動きの誇張や連続した動き、メリハリをつけて変化のある表現ができていたとの仲間の評価からも伺えるが、「表現したい」や「伝えたい」の気持ちから表現運動の技術の向上に有効に効果を示したことを推察する。

本授業では、表現のイメージを明確にする目的でムーブメントマップを試行した。具体的に、各自がストーリーを綴り、動きを言葉に DKW を使用して感情を起伏線に描いた。学習の観点は、即興的な表現力を高め²¹⁾、何を評価するのか¹⁵⁾をマップに示すことである。動作に関する知識に、マイネル^{13,29)}による動作学の視点をダンス系動作に繋げた。従って、対象者の表現運動に関する学習意欲が高まり、羞恥心の評価は低く身体表現に

対する新鮮な状況で表現できて対象者の学びに向かう態度として、探求的な学習の効果が示されたと推測する。ムーブメントマップの明記は、何をどのように表現するかの筋道を立てひと流れの動きを明確にできる探求的な学習に効果的な方法として試みることができたと考える。教師は、グループの動きの共通点やオリジナルな特徴を問い掛けながら進行できる資料として有効であった。

尚、プレゼンテーションでは、自他国の伝統的

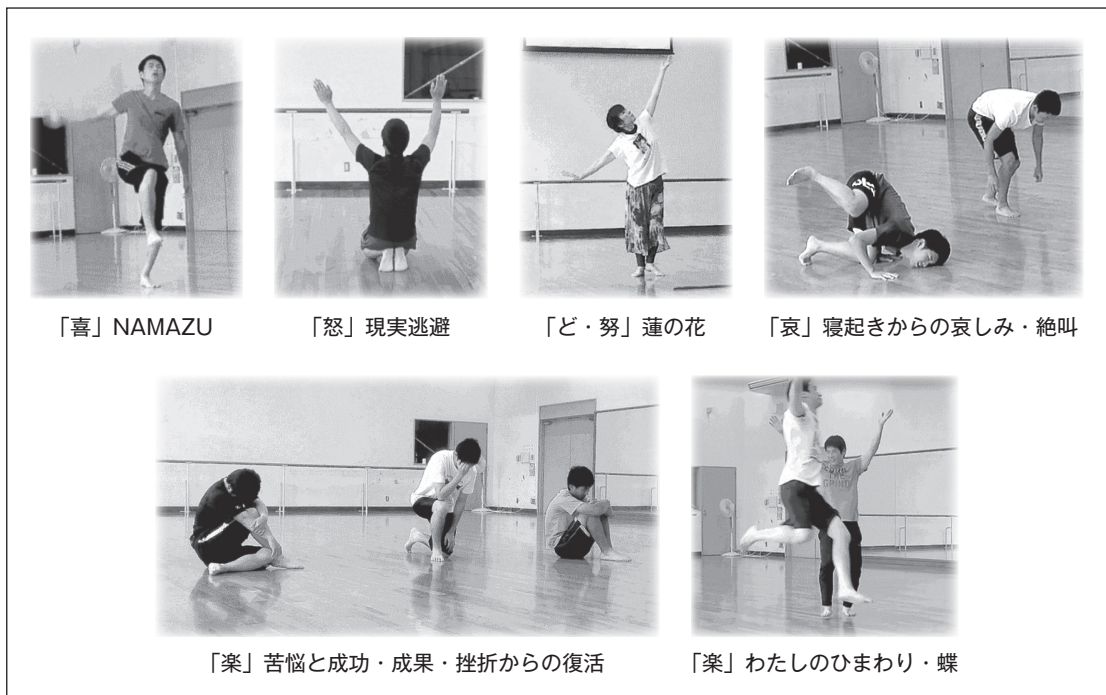
なダンスを調べた発表、童謡から中国語やフランス語、そしてオノマトペで歌詞を創る挑戦にまで発展して発表し合ったことは、大学生の探求的な学習への意欲として評価する。

3. 教育評価から見えたこと

Table 3の結果、学習指導要領における育成すべき資質・能力の柱の一つである「何ができるようになるか」をダンス教育の要となる項目や

Table 10 Reflection about expression exercise.

- ・発表会の本番になると「表現したい、伝えたい」という気持ちが高まり自分らしく表現することができたと思う。
- ・感情を動きで表現するのはとても難しいことだと思った。
- ・最初にはどうなるかと思ったが音楽に合った動きをすることができて良かった。憧れのアスリートを表現して気持ちが少しわかった気がした。皆も体を大きく使い表現していて素晴らしいと思った。授業の最初の頃は表現も動きは小さく工夫もなかったと思う。2か月で全身を使って表現する力が身についたと強く実感できた。
- ・表現運動はとても難しいかなと感じたが、思っていたよりもテーマが決まってしまうと楽しく表現することに向かっていくことができた。
- ・最初はダンスとはどういうものか全くわかっていなかったが、授業を重ねる毎に楽しさを知ることができた。
- ・テーマは決めたが他は何も決められない中、自分で決めていくことが難しかったが楽しかった。
- ・身体全体で「哀」を表現できるようによく考えて取り組むことができた。難しかったけれどもとても楽しかった。
- ・人間の楽しみ、それぞれに自分の表現したい動きができていて良かった。大きく表現することは恥ずかしかったが、とても楽しいことを学んだ。仲間を見ていてとても楽しかった。
- ・身体を大きく使って表現することで見ている人にもしっかり伝わるのだと感じた。
- ・皆のストーリーがしっかりしていて表現が理解し易かった。自分達は空間を使って大きく動き回って表現することができたと思う。
- ・皆、ダイナミックに発表していた。自分も最後には自分なりの表現ができて良かった。



Material.1 Expression of Four Emotions.

DWK についての評価を得た。興味を持つことができたことの評価は高く、テーマやイメージに相応しい動きができたことやメリハリを付けて伸び伸びと動くことができたことの評価は、課題に対する意識を持ち取り組んだことが示唆される。特に、羞恥心への対策はダンスの運動領域に取り組む課題でもあり、これ迄の実践研究^{24, 25, 26)}にても表現運動に対する羞恥心を乗り越えることを念頭に授業を実践してきた。本授業でも「2」や「1」評価が示されなかった事は成果である。伝統文化への興味の評価が一番低かった点は、授業で取り上げた民謡踊りに十分な時間を設けず進行したことよると思われて次期課題である。

Table 5では、発見学習・問題解決学習に関する項目として「どのように参加したか」の自己評価と意見をj得ることで、対象者の状況を知ることができた。Bonwell and Eison (1991) ら²⁾は、大学授業を深化させるための教授法に“active learning”を掲げ、その本質を知ることが重要であると報告している。実践(読む・書く・討論・問題解決等)による“strategies promoting active learning”は、行動や思考に生徒を巻き込む指導的な活動と定義され、これらテクニック使用は学びに活気があることの見解を示している。結果は、聴く以上の関わり、思考、活動、参画できたこと、そして認知の外化に有意差が認められている。主体的に対話的に関わり知り得た情報を活用した授業への参加は、対象者自らの深い学びが窺がえる。スキルに関することや価値研究については、対象者の今後に期待したい。

本研究では、振り返りを重視した学習課程に焦点を当て、問題解決学習をしていくダンスの動きの構築にどのように影響したかを考察した。Fig.1の結果、自己評価が高いことは、発見学習・問題解決学習を促進させる傾向があることが示唆された。「何ができるようになるか」の「知識・技術」の習得、「思考力・判断力・表現力」の育成、「どのように参加したか」の意識態度は、「どのように学ぶのか」とのカリキュラム・マネジメントの役割は非常に大きいと考える。振り返りは、学習体験や学びの言語化で具体的な視点をより把握

でき、これらの資料は、今後の教師の指導マニュアルとして有効に活用できると考える。

4. FD から学ぶこと

教育評価のねらいは、授業改善と学生の声を自ら授業に反映させて、学生と教師との温度差を少なくすることと考えている。対象者の振り返りには、「楽しい、面白い」の感想や「伝えたい」と思ったこと、「伝わることを実感した」の感想が書かれていた。仲間への表現には、「見て楽しい、仲間が素晴らしい」と評価している。学習過程での「考える楽しさ、自分なりの表現、プレゼンや調べることの満足」が書かれ、DKW に示す動きに意識して表現していたことが示された。時系列では、「苦手意識が無くなる、恥ずかしさがどんどん無くなった、難しいが楽しい」の変容は、問題を明確に思考錯誤して客観的に仲間と共有した学習が、有効に働いたと思われる。Table 7の結果には、ダンスウォーミングは他に比べ低い評価が示された。松本千代栄³⁾はダンスウォーミングが動きを引き出す重要な役割を持つことを、高橋和子²¹⁾は動きを引き出す教員の発問や声掛けの影響は大きく、主体的・対話的で深い学びを指導するダンス学習の意義や価値を提唱している。カリキュラム・マネジメントの充実につなげる視点を確認できた。対象者の言葉や教育評価を吟味して、ダンス学習の意義や価値を伝えられるように研鑽いたしたい。

ダンス教育の必修化^{4, 15, 29)}は、体を動かすことが身体能力を身に付けて情緒的や知的な発達を促し、身体表現を通してコミュニケーション能力を育成するねらいがあると提唱されている。教員養成課程での自己表現の体験は、将来のダンスの取り組みに繋がるものと思われる。2018年、大学生による少人数による創作ダンスのアーティストック・ムーブメント¹⁾を鑑賞する機会を得た。美しく効率の良い身体の動き方を探求していくダンスの特徴が十分に披露され、美しい姿勢、力強い身体活動、そして豊かな表現は、DKWの宝庫であり、5W1H⁹⁾のメッセージを演じるパフォーマンス

であった。情報が豊かで技術の凄まじい今時代にこそ自己の表現力を発揮できるダンス教育の意義は大きいと示唆する。「どのように学ぶか」の一旦を担う教師の役割は重要と捉えており、カリキュラム・マネジメントの構築に焦点を当てた本実践の結果は、探求的な学習、認知の活用、仲間との共有などの多様な学習の活動ができ、深い学びとして有効な効果が認められたことを示唆する。

マイネル¹³⁾は、教師の任務と動作学は十分な意義をもつことについて、“われわれは、将来に向かって進む。そこにおいては、体育・スポーツがただ単に、健康維持やスポーツ活動の向上の手段であるばかりではなく 全国民にとり生活要求となり、生存に必要なものとなりはじめており、すでになっている”と述べている。2018年、スポーツ庁長官¹⁹⁾は大学スポーツ改革を掲げている。縦断的な身体教育は不可欠であり大学に引き継がれ、生涯に継続される必然的な活動であることから、身体活動、ダンスの学びは大きいと示唆する。また金沢大学⁷⁾の教育には、「深い学び」(DeAL: Deep Active Learning)の学習が掲げられている。授業での働きかけを総合的に分析、深い学びに繋げていくことができたのかを再考する本研究は、意義深いと考えている。対象者の達成感や満足感を得た学習は、将来の小学校教員としてダンス教育の意義に触れてダンスの重要性や指導の糧になることを期待したい。

5. 結論

本研究は、小学校教員養成ダンス授業において表現運動での感情を込めた表現が広がるカリキュラム・マネジメントを構築した効果を調べることである。

1. カリキュラム・マネジメント構築についての教育評価は、重視した5つのプログラムの平均値及び標準偏差は 4.3 ± 0.15 で有意な評価を得ることができた。特に、振り返りの評価は高く、平均値及び標準偏差は 4.5 ± 0.52 を示した。振り返りによる学習過程の見える化は、学習の経過を再学習でき主体的な深い学

びに繋がり、教師は対象者の状況把握やコミュニケーションに活用できると示唆される。

2. 授業の課題として2つのアプローチでは、「喜怒哀楽」のテーマは感情を込める表現となり、「ムーブメントマップ」の試行は探求的で問題解決をする学習過程にイメージを具体化でき表現の広がる動きの構築に有効であったと示唆する。
3. 認知領域に関する自己評価について、平均値及び標準偏差は 4.0 ± 0.39 であった。特に、興味を持つことができたことの平均値及び標準偏差は 4.6 ± 0.50 を示し、相応しくメリハリのある動きができたことに有意差が認められた。
4. 発見学習・問題解決学習に関する自己評価では、聴く以上の関わりをしたことや、思考、活動、認知プロセスの外化が有意な差を示した。自己評価が高いことは、発見学習・問題解決学習を促進させる傾向が示された。
5. 授業のモチベーションは、初回に比べ中間時そして最終時と上がり、「楽しい」や「達成感」における評価の平均値及び標準偏差は 4.6 ± 0.67 となった。

References

- 1) アーティスティック・ムーブメント・イン富山、実行委員会 (2018.9.16 - 17) ARTISTIC MOVEMENT INTOYAMA 2018. 第27回 ART.M 創作ダンスエキシビジョン.
- 2) Bonwell C. Charles, James A. Eison and Jonatban D. Fife (Ed.) (1991) Active learning - Creative excitement in the classroom. George Washington University: Washington.
- 3) 舞踊文化と教育研究会、松本千代栄撰集3 (2008) 人間発達と舞踊創作. 明治図書出版株式会社.
- 4) 舞踊文化と教育研究会、松本千代栄撰集

- 第2期 - 研究編2 (2008) 舞踊運動学領域. 明治図書出版株式会社. 舞踊評価用語一覧, pp.61 - 107.
- 5) Jean McNiff and Jack Whitehead (2005) Action research for teachers - A practical guide. David Fulton: New York.
- 6) Jim Eison (2010) Using active learning instructional strategies to create excitement and enhance learning. <http://www.cte.cornell.edu/documents/.../Eisen-Handout.pdf>
- 7) 金沢大学 (2018) <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>
- 8) ケネス・H. クーパー: 広田公一・石川旦訳, 加藤橋夫「監」(1972) エアロビクス - 新しい健康づくりのプロブラム. ベースボール・マガジン社: 東京.
- 9) こきりこ節: <http://www.gokayama.jp/monogatari/kokiriko.html>
- 10) 公益社団法人日本エアロビクス連盟: JAF エアロビクス競技・採点規則. <http://www.aerobic.or.jp/competition/rule/>
- 11) (公社) 日本女子体育連盟, 東京都女子体育連 (平成 27 年 11 月 6 日 7 日) 粋に雅に明日を拓く～問いかけるから広がる可能性～. 第 49 回全国日本女子体育研究大会, 東京大会.
- 12) 公益財団法人 新体操連盟: 新体操採点規則 2017-2020. <http://www.jpn-gym.or.jp/rhythmic/>
- 13) Kurt Meinel, 萩原仁 訳 (1980) 動作学 上巻. 新体育社.
- 14) 文部科学省: <http://www.mext.go.jp/>
- 15) 文部科学省 (平成 25 年 3 月) 学校体育実技指導資料第 9 集 表現運動及びダンス指導の手引. 東洋館出版社.
- 16) 文部科学省 (平成 29 年 7 月) 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 体育編. 東洋館出版社.
- 17) 西洋子・本山益子・鈴木裕子・吉川京子 (2003) 「子ども・からだ・表現」- 豊かな保育内容のための理論と演習 -. 市村出版: 東京, 123 - 129.
- 18) Reg W. Revans (1983) Action learning. http://en.wikipedia.or/wiki/Action_learning. ロンドン大学教育研究所大学教授法研究部・喜多村和之ほか訳 (1982) 大学教授法入門 - 大学教育の原理と方法 -. 玉川大学出版部: 東京. < University of London teaching methods unit (1976) Improving teaching in higher education. >
- 19) 鈴木大地: スポーツ庁長官 (2018.10.20) 大学スポーツ改革. せよ「日本班 NCAA」設立へ. 北陸大学講演.
- 20) 高橋和子 (2018) 創作ダンスコンクールが心身に与える影響 全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸受賞校の事例. 日本体育学会 第 69 回大会予稿集: 240.
- 21) 高橋和子: 日本女子体育連盟会長 (2018.12. 2) 主体的・対話的で深い学びを指導するダンス学習. 石川県女子体育研究会 50 周年研究大会.
- 22) ヴァレリイ・プレストン, 松本千代栄 訳 (昭和 57 年) モダンダンスのシステム - イギリスの教育舞踊とその展開 -. 現代舞踊学双書 3, 大修館書店.
- 23) 山崎正枝・川端健司・南谷直利・山本博男 (2017) 下肢バランスの要素を含む伝統文化を取り入れたエアロビクス授業の事例研究 - こきりこ踊り -. 北陸体育学会紀要, 53: 47-58.
- 24) 山崎正枝 (2018) 小学校教員養成体育科授業における深い学びへの実践研究. 北陸体育学会紀要, 54: 33-50.
- 25) 山崎正枝 (2018) 大学授業におけるリズムダンスや表現運動での振り返りのアプローチに関する実践研究. 日本体育学会 第 69 回大会予稿集: 240.
- 26) 山崎正枝 (2019) 小学校教員養成体育科授業における表現運動の動き」の構築から見たアプローチ. 日本体育学会 第 70 回大会予稿集: 313.
- 27) 吉川京子 (1997) 小学校における表現運動指導の現状と課題 - 石川県を対象として -. 金沢大学教育学部紀要 教育科学編, 45: 95-104.
- 28) 財団法人健康・体力づくり事業財団 (2011)

健康運動実践指導士養成用テキスト(上)(下). 29) 全国ダンス・表現運動授業研究会(2017)
財団法人健康・体力づくり事業財団:東京. 明日からトライ!ダンスの授業.大修館書